

## おばちゃま探検隊、自治会長さんにインタビューする

海蔵小学校の周辺に、気になる「黄色い箱」を見つけたおばちゃま探検隊。  
東阿倉川二区の自治会長さんに、お話を伺いに行きました。

おばちゃま : あの黄色い箱は、何ですか？

自治会長さん : 津市にある鉄工所さんが、特許を取っている「タタメール」という折りたたみ式のごみ箱なんです。  
今までも、子どもさんたちが通学をしている道路に、ごみ置場がありました。普段は、たんでおけるので邪魔にならなくていいので採用しました。東阿倉川二区では、半分くらいのごみ置場で、設置に協力してもらえました。

おばちゃま : 本当に、うまくできてますよね。開くのも軽くて簡単にできるし。「可燃ごみ」の日の朝一番に出しにくる人が、開いて、ごみを置いていくんですね。

たたむのは、誰がしているんですか？

自治会長さん : 「可燃ごみ」を収集していくときに、たたんでもらってます。

おばちゃま : そうなんですねー。

自治会長さん : もうひとつ、良かったことがあるんです。今までは、カラスが生ごみを散乱させることがありましたが、これを設置してからは、まったくカラスが来なくなりました。

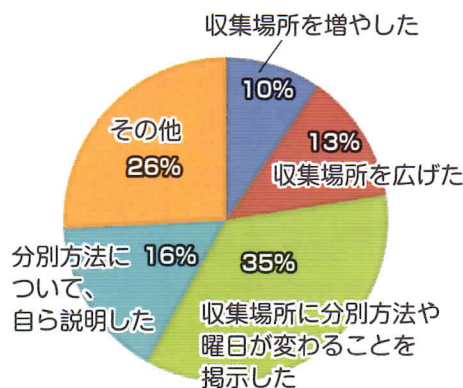
おばちゃま : そうそう！カラスって結構大きいんで、通学してる子どもさん達も怖がっていたんですよ。カラス避けにもなって、便利ですね！



## おばちゃま探検隊、自治会長さんにアンケートする

各町の自治会では、ごみの収集場所の管理をいただいています。そこで、平成28年4月から分別方法が変わったことに伴った対策や、「ごみ問題」について、自治会長さんにアンケートを取りました。

### 周知など工夫をしていました



分別方法が変わることに伴って各自治会が行った対策(複数回答)

- 多くの自治会長さんが、収集場所に分別方法や曜日が変わった事をわかりやすく掲示していました。また、周知をするために、新しく看板を設置している所もありました。
- その他の回答の中には、「乾電池」を入れるために専用のバケツを用意した自治会もありました。  
**「乾電池」は二週間に一度、缶やビンなどと一緒に資源物として出しましょう！**
- 「可燃ごみ」として出せるものが多くなったことから、収集場所の広さについても、アンケートを取ったところ、「狭い・やや狭い」が半数ほどありました。

## ルールが守られていないことがあると回答が・・・

布団や、化粧品のビン・スプレー缶などが間違ってお出されていたり、ペットボトルのキャップやラベルを外していないものなど、ルールが守られていないことがあるそうです。その場合、複数の自治会では、一旦持ち帰って物置などで保管してもらっていました。分別方法については、市から配布されている「ごみガイドブック」を確認して、一人ひとりがルールを守りたいですね！